

安全・安心な心臓手術

豊橋ハートセンター 大川副院長が講演



手術を心臓手術の心豊橋ハート
心会豊橋ハート
公演で
安全講演
センター

毎月1回、患者と医師の交流を目的にした講演会を開く豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)で、このほど5月講演会が行われ満席

のにぎわいだった。同センターは昨年、患者交流組織「ハートええじゃないか友の会」をスタート。作家の宗田理氏を会長に月

刊誌も発行し、大勢の患者、家族など会員に同誌を配布するなど患者の立場に立った医療の推進を目指す。

今回は8回目の講演会で鈴木院長が「1つでも役立つこと、ためになることを学んで健康ライフを実践して」とあいさつ。第1部は宗田会長が「日記を書いて頭の働きをよくしよう」をテーマに話した。「何を書くかと難しく考えず、簡単な内

容で十分」と。例えば朝ご飯に食べたメニューを毎日、書き込む。

それだけでも日ごろ眠っている神経ネットワークが刺激され、頭の回転が良くなる。慣れれば感想や絵を描いても楽しいと日記の勧めを。

第2部は、同センター副院長で心臓血管外科のスベシヤリスト・大川育秀氏が「安全・安心・納得の心臓手術」をテーマに、症例やオペ現場の映像など最新の手術内容を紹介した。

講演直前まで執刀していた大川副院長は、

手術着のまま駆けつけ臨場感豊かに分かりやすく説明。難しいバイパス手術なども、医師と患者、家族の信頼感により安全に行える

と強調した。講演後、患者らはハートサロンで湯茶サービスを受け、医師らに質問したり和やかに歓談した。(星野のりこ)